

# Soccer News Shiga

2018.3.20

**発行** (公社) 滋賀県サッカー協会  
**責任者** 専務理事 前田 康一  
 〒524-0212 滋賀県守山市服部町2439番地  
 TEL:077-585-0982 / FAX:077-585-0983  
 e-mail shiga@oregano.ocn.ne.jp  
 URL http://www.shigafa.com  
 印刷：スペース工房

第7回

## 滋賀県サッカーカンファレンス開催

技術委員長

梅田 英幸

### 【カンファレンスの目的】

滋賀県のサッカーに関わる者(関係者、選手、指導者、審判等)が一堂に集い研修することで、滋賀県のサッカーの発展に寄与することであります。

12月16日(土)に栗東芸術文化会館ささら中ホールにおいて、第7回目となるサッカーカンファレンスが開催されました。

### ・主な内容

- 講義① 「滋賀県PT報告」
- 講義② 「女子委員会報告」
- 講義③ 「滋賀県のキッズ年代の取り組み」
- 講義④ 「キッズ事業の重要性と日本サッカー協会の取り組み」
- 講義⑤ 「滋賀県TSG報告」
- 講義⑥ 「愛媛国体少年の部TSG報告」
- 講義⑦ 「技術と審判の協調」
- 講義⑧ 「育成年代の医科学サポート」

**講義①** 県サッカー協会技術委員の中村大氏による「滋賀県PT報告」がありました。PTとは、プロジェクト・チームの略称で、2024年の国体に向けて、滋賀県体育協会指導の下で発足したチームです。PTでは、強化ロードマップを作成しており、目標、目標達成に向けての課題、具体的な取り組みなどが報告されました。

**講義②** 県サッカー協会技術委員の鳥飼健一氏による「女子委員会報告」がありました。滋賀県的女子サッカーの現状、成果と課題、取り組みなどが報告されました。女子選手の増加やU-15年代チーム数の増加、育成年代の活躍など、喜ばしい報告もありましたが、U-18年代以降では、選手の県外流出や先進府県との大きな差が課題ということでした。

**講義③** 県サッカー協会キッズ委員長の杉本聡氏による「滋賀県のキッズ年代の取り組み」が報告されました。巡回指導、キッズフェスティバル、キッズリーダー講習会についての内容でした。キッズ事業は、滋賀県の育成を支える重要な事業であり、更なる充実と発展を願っております。

**講義④** 日本サッカー協会キッズ委員の上野二郎氏による「キッズ事業の重要性と日本サッカー協会の取り組み」が報告されました。キッズプログラムの役割や活動、一貫指導の中のキッズ、キッズのコーチング、JFAからのインフォメーションという内容でした。キッズ事業に関わる最新の情報を得ることができました。

**講義⑤** 県サッカー協会技術委員の森村紀夫氏による「滋賀県TSG報告」がありました。TSGとは、テクニカル・スタディ・グループの略称で、

1. 現代サッカーのトレンドを知る
2. 滋賀県の立ち位置の確認

### 3. 今後の示唆

という目的があります。昨年の提示からの今年度の取り組み、成果と課題が種別ごとに報告されました。そして、攻撃、守備、トレーニング、ゲーム、コーチング、指導者について、2018年度に向けての提示がありました。

(内容につきましては、県サッカー協会HPをご覧ください。)

**講義⑥** 日本サッカー協会ナショナルトレセンコーチの菊池彰人氏による「愛媛国体少年の部TSG報告」がありました。国体少年の部は、この年代のトレセン活動の集大成で、各FAの取り組みの成果を図る大会として位置付けられています。基本レベルの高い個が集まったチームが上位に進出していたと分析されていました。また、日常のトレーニング環境とゲーム環境が選手を育てると、日常の大切さを強調されていました。

**講義⑦** 「技術と審判の協調」ということで、滋賀県出身である1級審判員の今村義朗氏から審判員の概要や1人審判について話がありました。また、ユースダイレクターの中村正人氏、U-12県トレセンスタッフの佐々木実氏を交え、「相手を押さえる行為」「ハンドリング」「日本サッカーの文化とリスペクト」についての討議が、ディスカッション形式で行われました。

**講義⑧** 県サッカー協会スポーツ医学委員の澤大輔氏による「育成年代の医科学サポート」の講義がありました。育成年代の骨格の特徴や育成年代に多い身体のトラブルについての機序、症状、受診ポイント、対処方法についての内容でした。また、オスグットシュラッター病、シーバー病、腰椎分離症などの病気についても学ぶことができました。

今年度は栗東芸術文化会館ささらの中ホールをお借りし、講義形式のみで開催いたしました。関係者を含めると220名程のサッカー仲間が集結し、滋賀県のベクトル合わせの一助になったのではと思っています。次年度は12月15(土)に開催をしますので、是非ご参加下さい。

### 〈追記〉

昨年5月に、2019年1月に開催予定のJFA第11回フットボールカンファレンスに立候補しました。1000名を超える参加者が集うもので、JFAの取り組みや報告、世界のトレンド、各国の取り組みなどが共有できるカンファレンスです。6月には、日本サッカー協会の方に開催候補となる施設の視察に来ていただきました。残念ながら開催地は高知県に決定しましたが、何年後かには、滋賀県で開催したいと思っております。その時は是非ご協力・ご参加をお願いいたします。



# 2024年国体・全障大会に向けた将来構想決定!

## 理念

サッカー競技の普及、発展を図ると共に、県民の豊かなスポーツ文化の振興、心身の健全な発達に寄与する。

## ビジョン

- サッカーの普及、サッカーファミリーの拡大に努め、滋賀県民の豊かなスポーツ文化を振興する環境を作り上げる。
- 選手の育成強化に努め、日本で活躍するチームや世界で活躍する選手を輩出することにより、県民に夢、感動、そして希望と勇気を与える。
- 常にフェアプレーの精神を持ち、国内や世界の人々と友好を深め、広く社会に貢献する。

## スローガン

夢 実現!! ~滋賀のスポーツ文化確立~

## 2024年の到達目標

- ① 日本でトップクラスの組織になる。
- ② 滋賀県サッカー協会登録者数が 25,000 人になる。
- ③ 滋賀県にJクラブが誕生し、Jリーグで活躍する。
- ④ 第79回国民体育大会において、サッカー競技の総合優勝を勝ち取る。
- ⑤ サッカー専用スタジアム(20,000人規模)が建設される。

## 2024年のめざすべき姿

### 普及拡大

#### サッカーファミリーの拡大

\*登録目標数の設定・・・合計：25,000人

#### サッカー競技の普及

\*キッズからシニアまで、すべての年代にサッカーやフットサルなどが普及する。(女子を含む)  
\*すべてのカテゴリーで県内リーグが日常的に行われている環境になる。

### 育成強化

#### 選手の育成

\*日本一の選手育成県となる。  
\*キッズ事業やトレセン事業が計画的に実施され、質の向上が見られる。

#### チーム・選手の強化

\*県内でJリーグ等が開催され、県内チームが活躍する。  
\*各カテゴリーのチームが関西や全国レベルのリーグや大会で上位を勝ち取る。  
\*第79回国民体育大会でサッカー競技の総合優勝を勝ち取る。

#### 人材の養成

\*第79回国民体育大会で活躍する審判員や指導者を養成する。  
\*第79回国民体育大会の大会運営で活躍する人材や協会組織の充実寄与する人材を養成する。

### 基盤整備

#### 施設の充実

\*県内のサッカー専用施設(天然芝・人工芝)が10面以上増加する。  
\*サッカー専用スタジアム(20,000人規模)が建設される。

#### 県協会組織の充実

\*全国ランキングが20位以内になる。  
\*協会の財政基盤が堅固なものになる。  
\*協会HPを活用し、情報提供が行われる。

#### 社会貢献の推進

\*JFAの社会貢献事業が推進される。  
\*第24回全国障害者スポーツ大会に向け、障害者サッカーが推進される。

# おめでとう！第27回全国専門学校サッカー選手権大会、4連覇・10度目全国制覇

## 第27回全国専門学校サッカー選手権大会を終えて

..... ルネス学園甲賀サッカークラブ 監督 城山 昌人

日本一の専門学校チームを決める全国専門学校サッカー選手権大会も1991年に第1回大会が開催され、今年で27回目を迎えることとなりました。普段は各分野のプロフェッショナルを目指し、勉学に励んでいる20歳前後の専門学校生に勉強だけでは味わえない感動体験、成功体験を味わってほしいとの願いでこの大会が始まりました。多くのみなさまの協力の下、サッカー競技以外にも6つの文部科学大臣杯を戴く団体に成長しました。

今年度は、関西地区大阪府堺市のJ-GREEN堺で第27回全国専門学校サッカー選手権大会が開催されました。地元関西地区からは6チームの出場となり、昨年度は、ベスト4全てを関西勢の独占となりましたが、今年度は他の地域も打倒関西を掲げ大会に臨んできました。我々、ルネス学園甲賀健康医療専門学校は、4連覇、10度目の全国制覇を目指して大会に参加しました。普段は、ルネス学園甲賀サッカークラブ名で関西サッカーリーグ、天皇杯など社会人の中で活動しており、今年度の関西サッカーリーグでは前期最下位となかなか結果が出ませんでした。選手達のがんばり、ねばり強さで大きく成長して後期1位でリーグを終えることができました。その良い流れの中で大会を迎えることになり、予選リーグでは18得点1失点で決勝トーナメントに進み、準々決勝、準決勝ともに13対0で決勝戦に進みました。決勝では、北海道代表北海道スポーツ専門学校との対戦となりました。過去17大会中最終日まで駒を進めることができなかった大会が唯一1度だけ有りその時に敗戦した相手が今回の対戦相手となりました。結果は、7対1での勝利となり、10度目の賜杯を手に入れました。

毎年この大会での我々の課題は、ゴール前を固める、相手をどのように崩して点を取るか、ボールを失った後にすぐ回収できるかが優勝するための条件でした。特に今大会では、ドリブルからのダイレクトなどタッチの変化を多用して3人目、DFを動かしてからドリブル、ペナルティーエリアに人数をかけることから得点が多く生まれ、ボールロストから奪い返し得点にもつなげていきました。我々の日々の取り組みが存分に発揮できた内容でした。

今大会もベスト4に関西勢が3チームと西高東低の勢力図となっており、関西勢の躍進が目立っております。近年の少子化で多くの専門学校がスポーツに力を注ぐことができなくなってきた。その中で関西は全国を引っ張っていくために多くの取り組みをして加盟校の増加、大会の認知度を上げています。ルネス学園もこの大会を50回、100回と続く大会になるように努力していきたいと思っております。

最後になりましたが、大会期間中に会長、専務理事ほか多くの方々の応援、激励を頂きありがとうございました。



## 第66回全日本大学サッカー選手権大会(インカレ)を振り返って

..... びわこ成蹊スポーツ大学 北村 裕貴

第66回全日本大学サッカー選手権大会(以下インカレ)が、平成29年12月13日から24日まで関東圏で開催された。大会は全国9地域の各リーグ戦で出場権を獲得した24チームがトーナメント方式で真の大学日本一を目指し戦った。びわこ成蹊スポーツ大学は、第95回関西学生サッカーリーグで2009年の通年制リーグ移行以来、初めて優勝することができた。関西第1代表として挑むことになったインカレでは1回戦はシードとなり、2回戦からの登場になった。

2回戦の対戦チームは1回戦で松本大学(北信越第2代表)に勝利した鹿屋体育大学(九州第2代表)であった。当日は滋賀県から150名を超える応援団がスタンドを埋め、ホームさながらの雰囲気を作った。大応援団に後押しされたチームは、試合立ち上がりから勢い良く相手陣内に押し込む時間が続き、幾度となく決定機を作ったが得点には結びつかない。スコアレスで前半を終えるかと思われた前半43分、コーナーキックのこぼれ球を大西裕斗(DF/洛北高3年)が押し込み良い時間での先制に成功。後半は一転して押し込まれる時間が長くなったが、中盤や最終ラインの守備が粘り強く対応した。最終的には相手のシュート本数を1本に抑え、1-0での完勝。準々決勝へと進んだ。

中1日で迎えた準々決勝の相手は、今夏の全国大会「第41回総理大臣杯大学サッカートーナメント」の覇者である法政大学(総理大臣杯優勝出場枠)であった。前半先制を許すも、44分にPKを獲得。これを井上直輝(FW/立正大学浜南高2年)が決め、試合を振り出しに戻す。後半は一進一退の攻防が続き、58分に失点するも80分に同点。まさにシーソーゲームの装いとなる。このまま延長戦突入かと思われた88分、一瞬の隙をつかれ、土壇場で勝ち越しを許してしまった。ラストプレーではGKも攻撃に参加し最後まで諦めずに戦うも、タイムアップ。関西王者として挑んだインカレはベスト8という結果で終わった。

大会を通して、攻守に渡りアグレッシブに全員が関わる「らしさ」は随所に見られ、通用した部分であった。関西学生リーグでの優勝は「あと1秒」「あと1m」「あと少しの粘り」の積み重ねで勝ち取った。そこで育まれた「逞しさ」も全国どこの大学にも負けない強みである。そうした強みをさらに磨くとともに、経年的に選手が「主体性」を持ってサッカーと向き合ってきた伝統を継承し、よりよいチーム・組織を目指していきたい。

末筆になりましたが、滋賀県サッカー協会はじめ、県内サッカーに関わる全ての皆様にご支援ご声援頂きました。この場をお借りし厚く御礼申し上げます。



## 第96回全国高等学校サッカー選手権大会を終えて

..... 滋賀県立草津東高等学校サッカー部 監督 小林 茂樹

上記の大会に3年ぶり9回目の出場が決まりました県予選では、大会運営など多くの方々にご尽力をいただき、ありがとうございました。その2日後の抽選会で、初戦が前年度優勝校の青森山田高校となり驚きはしましたが、「最初から決勝戦をさせてもらえる」という気持ちで前向きに捉え、対策を練りました。現状維持では勝負にならないと考え、個人もチームも成長するために、もう一度初心に戻って互いに競争する気持ちを持たせ、40日間の強化を図りました。試合の前々日まで控え組の練習試合を行い、誰がメンバーに選ばれても不思議でないチーム状況になり、順調に試合当日を迎えることができました。

試合会場のフクダ電子アリーナは、サッカー専用のスタジアムで雰囲気も素晴らしく、「滋賀県にもこんな競技場があればもっと子供たちの喜ぶ顔が見れるのに」と痛感しました。スタンドはほぼ満員の観客で埋め尽くされ、本校応援団の大きな声援の中、選手はのびのびと躍動してくれました。前半は、個々の能力の高い相手に怯むことなく、プランどおりに進めることができましたが、残り5分に我々にビッグチャンスが訪れ、敵ゴール前で決定的なスルーパスが出たと思った瞬間、相手に紙一重で防がれ、逆に一気に自陣に蹴り込まれ先制されました。この失点で後半は、「取り返さねば」という攻撃の意識が高まりすぎ、それまでの粘り強い守備の連携が希薄になり、さらに失点を重ねる状況に陥ってしまいました。しかし、多くの方々の応援のお陰で、最後まで諦めない草東の魂を込めたサッカーを見ることができ、下級生の心にも強く伝わるものがあつたのではないかと確信しています。

選手権の舞台は独特の雰囲気があり、誰もがピッチに立った瞬間、表現できない高揚感と闘争心が湧いてきます。そんな華やかな場所に、私の退職時に3年生が中心となって連れて来てくれた事に心から感謝しています。これからも微力ながら部に関わらせていただきませんが、三十数年間、県協会・県高体連専門部の皆様にお世話になり、誠にありがとうございました。

最後になりましたが、今回多くの皆様よりご支援・ご声援を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。



第3戦は、翌27日に行われ同じく1日目を2戦2勝で終えた石川県代表・リオペードラ加賀FCと対戦しました。得失点差により引き分け以上で、グループリーグ1位通過の可能性がある中で、迎えた前半5分に岡田選手が先制。このまま勢いにのるかと思われましたが全国大会は甘くありませんでした。9分、14分と立て続けに失点。16分には岡田選手のゴールで同点に追いつきましたが、その3分後失点。2-3で前半を折り返しました。なんとか、グループリーグ突破に向け選手全員で一丸となり後半を戦いましたが健闘も虚しく2-3のまま終了。グループリーグ1位での突破はなりませんでしたが、第1戦目第2戦目得点数が功を奏しワイルドカード1位にてベスト16進出を決めました。

同日正午に行われましたワイルドカード組み合わせ抽選の結果、ラウンド16初戦の相手はサガン鳥栖となりました。選手たちの持てる力を信じ、そして全国の舞台で我々の指導方針である「技術・意識・闘争心」がさらに成長するよう全力で戦いましたが1-5と敗戦。全国大会ベスト16という結果に終わりました。

世界に通用する選手の育成を目標にクラブ創設10年で初の全国ベスト16という結果を出すことができました。

選手にとっても、指導者にとってもたいへん貴重な経験をさせて頂き、今回の経験を活かして世界の舞台に羽ばたく選手が出て行くことを期待したいです。さらにクラブとしてもまた、このような素晴らしい舞台に立てよう「No, Fun No, Football」「常昇・常勝・常笑」をモットーに日々世界に目を向けながら日々成長していきたいと思っております。

最後になりましたが、関係者各位の皆様には様々なご支援ご声援を賜りました事を厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



## 第41回全日本少年サッカー大会を終えて

..... アミティエ・スポーツクラブ草津 蓑方 直輝

昨年12月25日~29日に鹿児島県で開催されました、第41回全国少年サッカー大会に、4年ぶり2回目の出場を果たすことができました。

12月25日朝に出発し、鹿児島まで新幹線で移動し、移動の疲れもなくリラックスした様子で午後からの開会式に出席しました。開会式に先立ち「薩摩川内踊り太鼓」の勇壮な演舞が披露され我々を歓迎していただきました。開会式では、ゲストに高校時代に鹿児島実業高校から全国高等学校サッカー選手権大会に出場した元日本代表・城彰二さんが招かれ選手たちに「勝つことで自信を付けられ、負けるとそれは大きな力になると思います。仲間を信じ、自分の力を信じて全力で戦ってください」と貴重なお言葉をいただきました。選手たちは、アミティエ(フランス語で友情)を大切にしながら戦うことが改めて理解し大会に向けていい準備ができる素晴らしい雰囲気の開会式でした。

翌26日に行われた、第1戦は高知県代表・宿毛FCと対戦しました。選手たちは立ち上がりこそ緊張した姿を見せる場面もありましたが、開始3分に上林選手が先制ゴールを挙げチームが勢い付き終わってみれば7得点をあげ第1戦を勝利で飾ることができました。第2戦は同日午後から宮城県代表・ACジュニオールと対戦しました。前半は、シュート本数も同じで両者互角の戦いを見せ0-0で終了。後半4分に、上坂選手のミドルシュートが決まり先制。終了間際に岡田選手のダメ押しゴールにより2-0で勝利。大会1日目を2戦2勝で終えることができました。

